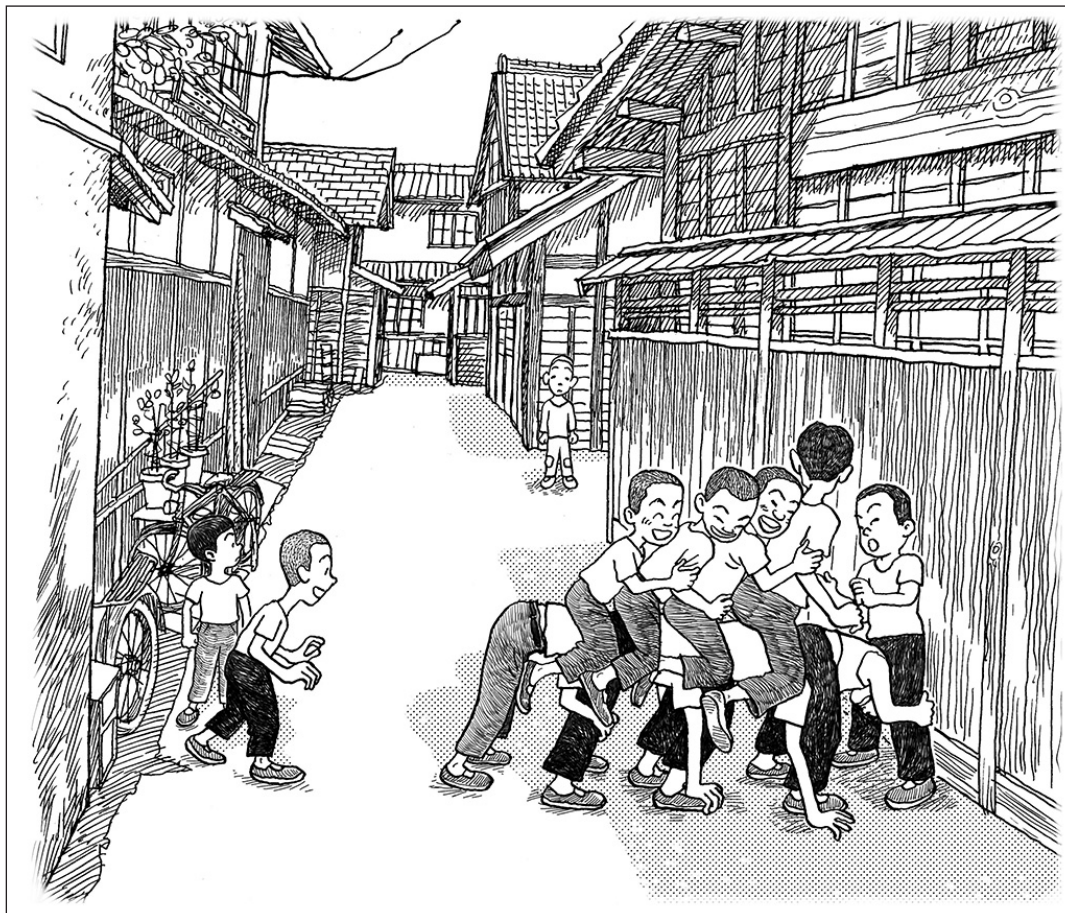


# 東成区の昭和 やぶにらみ日記

絵と文：柳たかを

## 昭和の子ども遊び「胴馬」



### 「胴馬」

今上天皇陛下と美智子皇后陛下がご結婚されたのは、僕が小学4年生になったばかりの昭和34年(1959年)4月10日のこと。晴れがましいお二人の馬車パレードの様子を、当時高級家電だった白黒テレビの生放送で見たことを鮮明に記憶している。

テレビが一般家庭に普及し始める前の1950年代後半の4～5年間、「子供の遊び」には、昔から伝わる「伝承遊び」の面影がまだまだ残っていたように思う。

わが家の前の3メートル幅の道を挟んで並ぶ長屋の路地は、近所の子供らの絶好の遊び場。子供らの下校時刻から西の空が茜色に染まる頃まで、元気の良い叫び声や歓声がこだましていた。

野球の簡易版の「三角ベース」、子供らが二手に分かれ先攻後攻を決め、投手がホームベースに向かって投げたゴムボールを打者がバットで打ち返す。

一塁と二塁だけの扇状のヒットゾーンに打ち返し、野球のようにホームインを狙う。

「馬跳び」、馬役の子は最初は飛びやすいように低く膝を曲げ背中を丸めて馬になるが、飛び子が馬に触れているのは手だけ、お尻や内股・背中が馬に触れると「アウト」、馬役を交代しなければいけない。全員が成功すると馬は少しずつ膝を伸ばして難易度を上げ高い姿勢になっていく。

だんだん馬の高さがアップしていき、ついに飛び子の脚が馬役の頭に当たらないよう首を前に折っただけの直立姿勢になる場合もあった。

飛ぶ方も飛ばれる馬役もスリリングな思いをする。

冬休みが始まると集まる子供の数も増える。寒いので身体が温まるような運動量の多い遊びが好まれた。なかでも「胴馬」はラグビーのような肉弾戦ともいえる最も

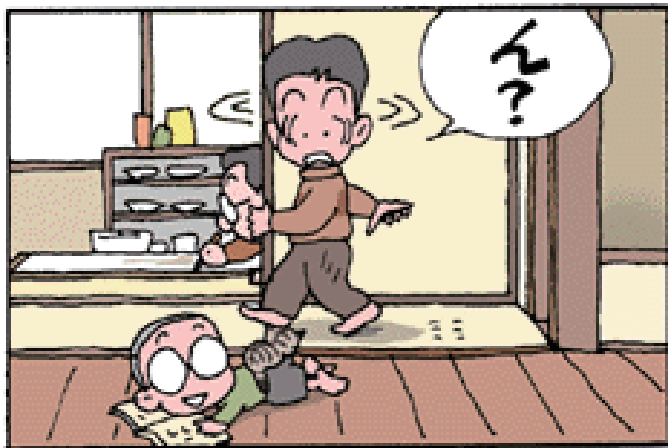
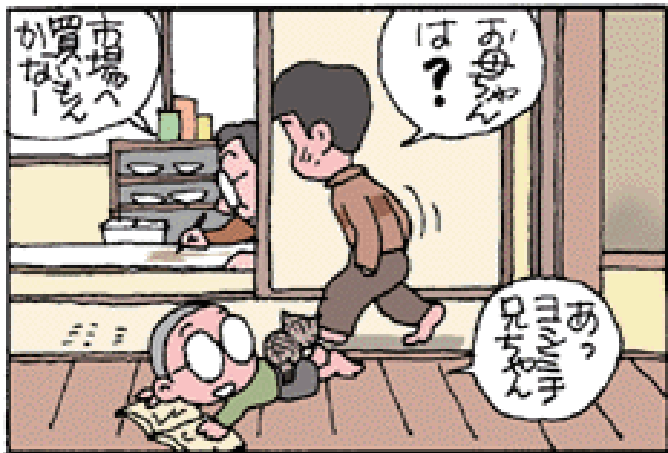
ハードな遊びだ。

同人数の2チームに分かれ、ジャンケンで飛び方と馬方を決める。馬チームは頭役を壁に背をけて立たせ、その子の股間に他の子が頭を突っ込んで馬になる。同じように次の子が前の子の股に背後から頭を突っ込み胴の長い馬を作る、さらに次々と同じ姿勢で繋がっていく。4人以上の馬が出来ると、最初に馬に飛び乗る者は相当助走をつけて飛び、出来るだけ壁に近い前方位置に飛び乗る技術を求められる。また飛び乗られる衝撃に耐える馬は相当キツイ思いをする。チーム全員が馬に飛び乗るまえに、誰かが地面に足をついたりすると落馬扱いとなり、チームごと「アウト」で攻守交代となった。

紙芝居好きでインドア派の僕は、あまり外遊びの得意な子供ではなかったので、身体がぶつかり合う「胴馬」には興味もあったが苦手意識の方が強かった。

# やぶにらみ記

東成区の昭和(74)



# やぶにらみ記

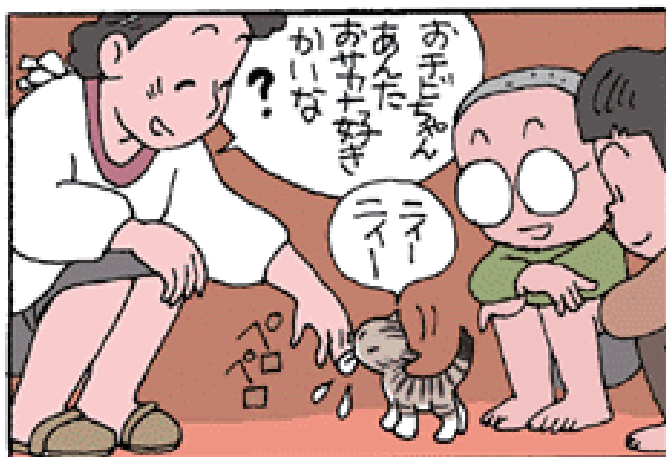
東成区の昭和(75)



# やぶにらみ記



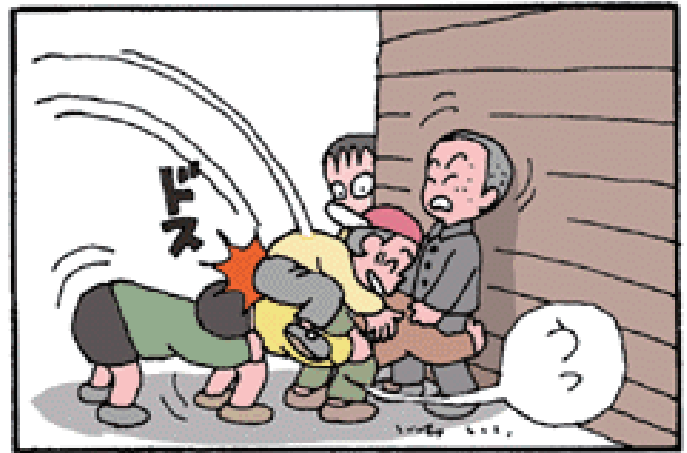
東成区の昭和(76)



# やぶにらみ記



東成区の昭和(77)









# やぶにらみ日記

東成区の昭和(80)



# やぶにらみ日記

東成区の昭和(81)

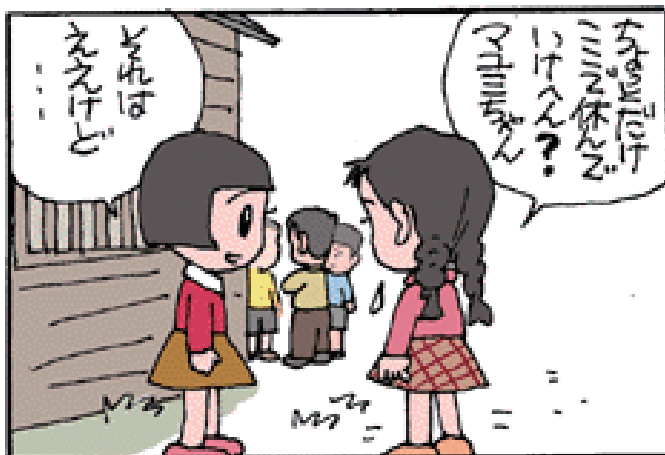
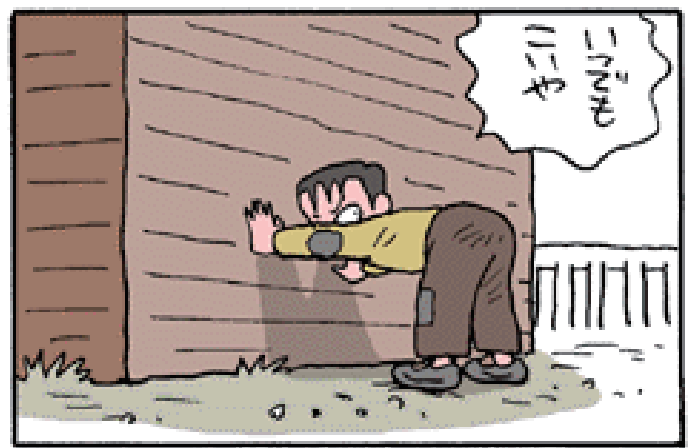
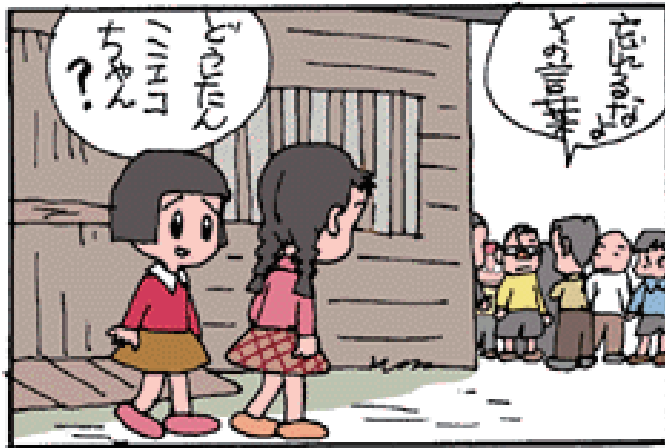
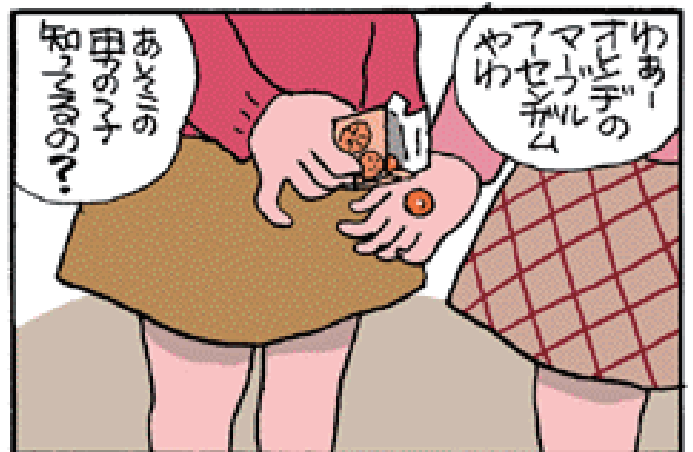
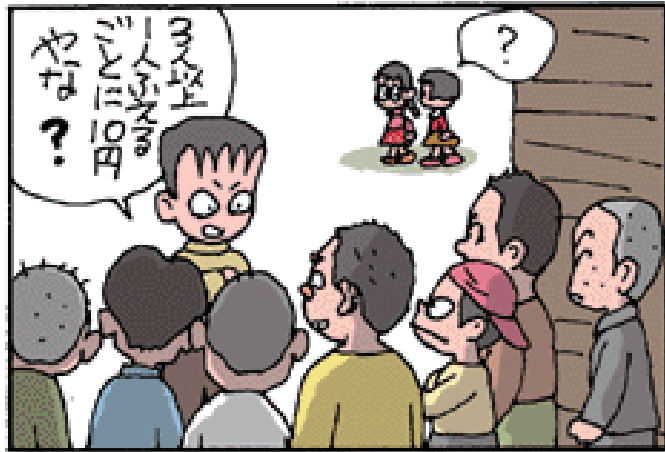
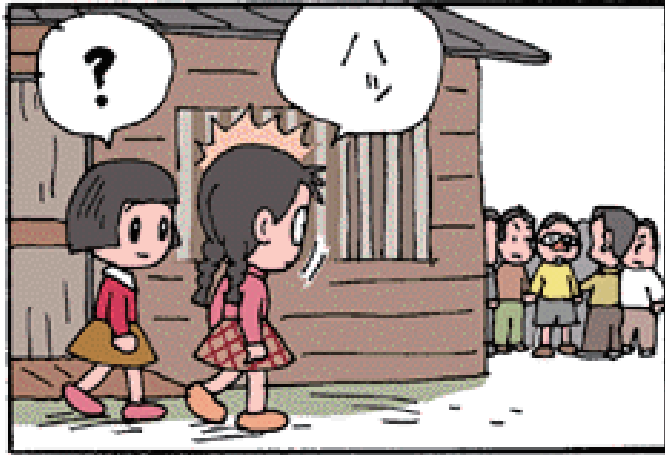


# やぶにらみ記

東成区の昭和(82)

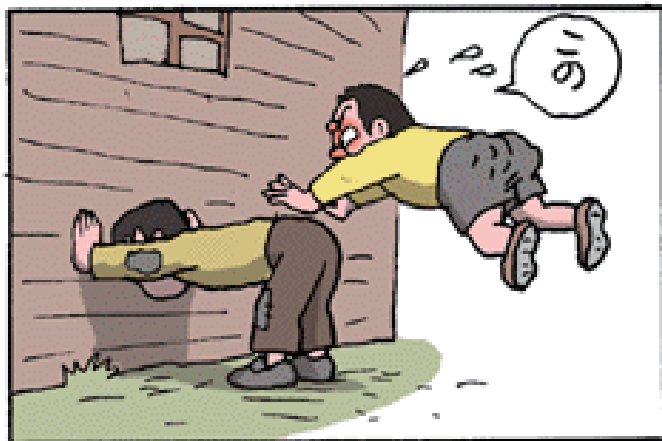
# やぶにらみ記

東成区の昭和(83)



# やぶにらみ日記

東成区の昭和(84)



# やぶにらみ日記

東成区の昭和(85)

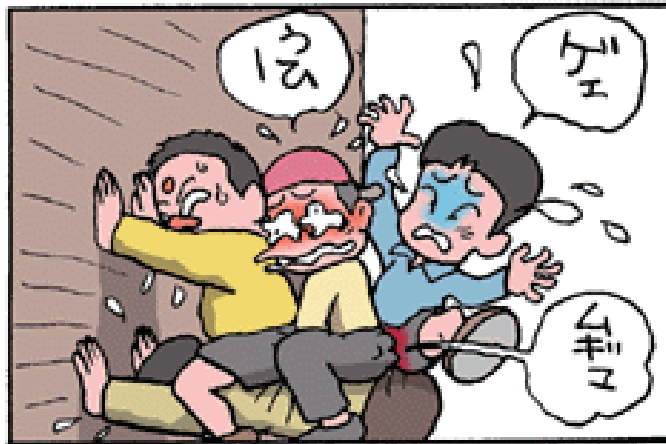




# やぶにらみ日記



東成区の昭和(86)



# やぶにらみ日記



東成区の昭和(87)

